

▼ 受賞者一覧 (敬称略)

最優秀賞		
こばやし 小林	りく 璃久	保原小 6年
たかぎ 高木	りおな 梨央南	月館学園中 3年
優秀賞		
こばやし 小林	あいり 愛理	伊達小 6年
ながさわ 長沢	けんた 健太	大田小 6年
かずまた 数又	みなみ 南	伊達中 2年
もりとう 森藤	おとほ 音羽	霊山中 3年

優良賞		
いけだ 池田	めい 芽生	伊達小 5年
きくち 菊池	ひまり ひまり	栗野小 6年
うらやま 浦山	けいすけ 慶介	保原小 5年
おおはし 大橋	りく 里玖	掛田小 5年
すすき 鈴木	りいさ 里依咲	梁川中 1年
ささき 佐々木	みく 美空	梁川中 3年
せきね 関根	あかり 明莉	月館学園中 1年
さいとう 齋藤	だいち 大智	月館学園中 2年

佳作		
さいとう 齋藤	はるき 悠生	伊達東小 5年
こみや 小宮	ゆい 結衣	伊達東小 6年
かとう 加藤	さくらこ 桜子	大田小 5年
おおこうち 大河内	みずき 瑞希	月館学園小 6年
さとう 佐藤	めぐみ 恵	伊達中 1年
やまき 八巻	あおい 碧	梁川中 2年
さとう 佐藤	そらみち 空道	松陽中 3年
さいとう 齋藤	らくほ 楽歩	霊山中 1年

伊達市民憲章 (抜粋)

- 一 まもりましょう
ふるさとの自然と歴史を
- 一 つなぎましょう
世代の絆とたしかな信頼を
- 一 そだてましょう
支えあいと思いやりの気持ちを
- 一 きずきましょう
学ぶ心とゆたかな文化を
- 一 めざしましょう
すこやかで活力のあるまちを

伊達市民憲章作文コンクール

テーマ「つなぎましょう 世代の絆とたしかな信頼を」

伊達市民憲章作文コンクールは、平成 29 年度から実施しており、今年度で 7 年目を迎えます。市内の小学 5、6 年生と中学生を対象に作品を募集しました。小学生の部 378 点、中学生の部 325 点の応募があり、11 月の審査会で 22 点の受賞作品が決定しました。

選ばれた作品はどれも素晴らしく、伊達市をより良くするために自分にできることを一生懸命考えている作品が多くありました。最優秀賞に輝いた作品をご紹介します。

12月9日の表彰式の様子▶

☎ 総務課総務係 ☎ 575-1239



私は、幼い頃から月館の人々の温かさに触れて育てきました。

私が幼稚園児だった頃、母と祖父は仕事に行っているため、家には祖母がいました。幼稚園から帰ってくると、毎日、祖母に遊んでもらいました。そして、私の楽しみのひとつだったのが、祖母が通っていた健康教室です。月館総合支所で週に三回行われている運動教室で、私は毎回祖母について行って、教室に通っている方々や先生に遊んでもらっていました。部屋いっぱい敷かれた広いマッ

ト、目新しい運動器具、幼い私にとっては最高の遊び場でした。今思えば、運動の邪魔になっていたときもあったと思います。でも、温かく受け入れてくれたこと、話しかけてくれたこと、全力で遊んでくれたこと、嬉しい記憶しかありません。小学校入学とともに健康教室には行かなくなりましたが、今でも当時遊んでくださった方から「大きく変わったね。」と声をかけていただくことがあります。その度に、当時は気付かなかった、育った環境のありがたさが身にしみ、温

かい気持ちになります。

小学生になってからは「おはなしの会」や地区のクリスマス会、太鼓の教室、市内のスイミングスクールなど、違ったところで地域の方との交流が増えました。しかし、今はなくなってしまうイベントや教室もあり、寂しい気持ちです。

この月館でたくさんの人々の温かさに育てられた私は今、ふるさとのために何ができるでしょうか。

月館学園中学校の生徒会活動では、全校生が四班編成で「ピカピカ運動」というボランティア活動を行っています。

ふれあい班は学童クラブに行き子供たちと遊び、お手紙班は地域のお年寄りに年賀状や暑中見舞いを書きます。プレゼント班は地域の事業所に七夕やクリスマスの手作りオーナメントを贈り、清掃班はお世話になっている施設の清掃活動をしています。活動を

を立ち上げたのは佐藤恵子さんという方です。佐藤さんは、

「今、社会の中で足りないものは地域のつながりです。昔と比べて地域のつながりが希薄になり、そのよくな地域は災害の時に亡くなる方が多い。コロナで更に人と人の間が離れてしまった気がしている。」

と危機感を訴えています。こうした思いから家庭でも学校でもない第三の居場所が必要と考え、こども食堂を立ち上げたそうです。しかもこの四年間、コロナで家族や友達以外の人と関わる機会が少なくなり、家で過ごす時間は不安で寂しかったです。環境や人間関係の変化はあるけれど、人と人との触れ合いやつながりがあるから幸せを感じるのだなと感じました。これからは地域の一員として、いろいろな活動に参加し、笑顔であふれる明るい伊達なまち作りを目指したいです。

「育ててもらった町」



中学生の部
最優秀賞



月館学園中学校 3年
高木 梨央南 さん



小学生の部
最優秀賞



保原小学校 6年
小林 璃久 さん

「笑顔でつながる 伊達なまち」

ぼくの家には毎月「だて市政だより」が届きます。伊達市に住む人なら目にしただことがあるのではないのでしょうか。ぼくの父は今年度の町内会班長として近所の家に回覧板や市政だよりを配付したり、クリーンアップ作戦に参加したりと地域のために活動しています。ぼくも隣の家に回覧板を届ける手伝いをしています。その時に近所の人達にもあいさつをするようにしています。少しでも協力することで地域の人達とつながり、安心して暮らせるのではないかと思うからです。

「だて市政だより」は、

伊達市の行政や市民のさまざまな活動を発信し、がんばっている人達を応援する広報紙です。インターネットを通してソーシャルメディアによる情報発信もしているの、より多くの人とつながり、交流することができます。ぼくはこの市政だよりを読んで「こども食堂」という場所があることを知りました。こども食堂は、一人暮らしの人や子育て中の人など、子どもから大人まで誰でも気軽に利用できる場所です。現在、市内には九カ所あります。それぞれ月一回から二回、地域の皆さんがボラン

ティアで美味しい料理を振る舞ってくれます。夏休みになったらぜひ、そのこども食堂に行きたいと思いい、家族みんなで保原町にある「てらこやしよくどう」へ行きました。

仙林寺というお寺にその「てらこやしよくどう」があります。ここではボランティアのおじさんやおばさんが作ってくれたランチをこっそりいただきました。とても暑い日でしたが、日陰での食事だったので風が気持ちよく、そうめんや天ぷら、キュウリの漬物を地域の人達と一緒に食べました。地元を取れたての新鮮な野菜を使った天ぷらは、揚げたてとても美味しかったです。

「もっとおかわりしたいよ。」とボランティアの方に声をかけられ、喜んで食べました。食後にピンポン玉すくいもやり、夏祭りのような感じで過ごせました。

市内で最初にこども食堂

を立ち上げたのは佐藤恵子さんという方です。佐藤さんは、

「今、社会の中で足りないものは地域のつながりです。昔と比べて地域のつながりが希薄になり、そのよくな地域は災害の時に亡くなる方が多い。コロナで更に人と人の間が離れてしまった気がしている。」

と危機感を訴えています。こうした思いから家庭でも学校でもない第三の居場所が必要と考え、こども食堂を立ち上げたそうです。しかもこの四年間、コロナで家族や友達以外の人と関わる機会が少なくなり、家で過ごす時間は不安で寂しかったです。環境や人間関係の変化はあるけれど、人と人との触れ合いやつながりがあるから幸せを感じるのだなと感じました。これからは地域の一員として、いろいろな活動に参加し、笑顔であふれる明るい伊達なまち作りを目指したいです。



▲受賞作品をウェブで読む